



2021年3月期第1四半期決算電話会議議事録

参考資料:2021年3月期第1四半期決算説明資料

[https://www.mitsui-](https://www.mitsui-kinzoku.com/LinkClick.aspx?fileticket=VJGO1Eyqxc4%3d&tabid=144&mid=1060)

[kinzoku.com/LinkClick.aspx?fileticket=VJGO1Eyqxc4%3d&tabid=144&mid=1060](https://www.mitsui-kinzoku.com/LinkClick.aspx?fileticket=VJGO1Eyqxc4%3d&tabid=144&mid=1060)

(補足) PKG : パッケージ基板

HDI : マザーボード(High Density Interconnect)

【機能材料セグメント】

- Q. (決算説明資料P10) MicroThin™が20Q1から20Q2にかけて数量が上向いているが、その背景をPKG向け、HDI向けそれぞれについて教えてください。
- A. PKG向けについては、20Q1に入りスマホ向け、非スマホ向けである5G関連用途向けともに好調。20Q2は20Q1よりやや落ち着くと見ているが、それでも高水準の受注をキープする見込。HDI向けについては、北米系スマホメーカーの20年モデルの作り込みが20Q2より始まることから、20Q1から20Q2にかけて販売量は増加見込。
- Q. HDI向けMicroThin™について、新規顧客の採用など何か新しい話はあったのか、また基板面積が広がるという話はどうなったのかも教えてください。
- A. HDI向けMicroThin™について、新規採用などの話は現時点では聞いていない。基板面積の広がりについては、そのような方向で話が進んでいると聞いており、販売量の増加に寄与する可能性はあるが、完成品を開けてみるまで確かなことは言えない。
- Q. (決算説明資料P10) PKG向けMicroThin™について、指数が20Q1:103から20Q2:92と数量が落ちているが、20Q2の減少は保守的なのかどうか、感触を教えてください。
- A. PKG向けMicroThin™について、20Q1から20Q2にかけて明らかに需要が落ちている動きが見えているわけではないが、20Q1の指数103は19Q3:87、19Q4:85と比較して急激に増加しており、20Q1に在庫需要が含まれている可能性は否定できないことから、20Q2は20Q1よりやや落ち着くと見ている。よって保守的な数値というわけではない。
- Q. PKG向けMicroThin™の販売が増加しているが、スマホ向けと非スマホ向けについて、実体としての成長が今後進んでいくのかどうかをご解説ください。
- A. PKG向けMicroThin™は、スマホ向けはスマホ高機能化に伴いスマホ1台当たりのMicroThin™使用量が増えていくと見ており、非スマホ向けはサーバーのメモリ向けを中心に5G関連投資の増加に伴って増えていくと見ているなど、スマホ向け・非スマホ向け双方で今後も着実に成長していく見込。
- Q. (決算説明資料P10) 電解銅箔について、数量を前回予想比で下方修正しているが、その需要動向について分野別(通信インフラ向け、フレキ向け)に教えてください。
- A. 全般的な市況について、20Q1は19Q4より好転していたが、当社は主力のマレーシア工場がCOVID-19による活動制限令により3月下旬から4月末まで操業停止になったため、販売数量は19Q4から20Q1にかけて減少した。20Q1から20Q2にかけて全般的な市況はやや落ち着くとみているが、当社は20Q2で通常操業予定であることから、20Q2販売量は20Q1より増加見込。通信インフラ向けについては、19Q4から20Q1、20Q2にかけて増加基調は不変も、前回予想ほどの勢いはなく、フレキ向けはマレーシア工場の操業停止もあり19Q4から20Q1で落込み、20Q2にかけて回復する見込みであるが、対前回予想比で電解銅箔は下方修正した。

- Q. (決算説明資料P10) MH合金と二輪向け触媒の上期予想を上方修正しているが、その背景を教えてください。
- A. MH合金は顧客の生産調整期間が想定より短かったため販売量増加を見込む。また二輪向け触媒は、インドでCOVID-19の影響で公共交通機関の利用を避けて二輪車を買う動きがあることから、20Q1から20Q2にかけてインドの販売量が急増する見込であり、前回予想を上回ると見る。
- Q. 触媒事業について、19Q3、19Q4からの貴金属の価格変動や販売量増加により、事業損益が見えにくくなっているが、20Q1決算ではどのように変動しているのか数量面、貴金属の価格面からご解説ください。
- A. 機能材料セグメントの経常利益について、Q1:38億円からQ2:14億円と減少している主な要因は、貴金属価格変動による影響を20Q1は+5億円のプラス、20Q2は▲19億円の悪化を見込んでいるため。また触媒の販売量は20Q1から20Q2にかけて増加見込だが、その要因は当社の主力であるインド工場が20Q1のCOVID-19影響による低操業から、Q2でインド二輪市場の好転により高操業を見込んでいるため。触媒事業については、20Q1から20Q2にかけて販売増を見込むも、貴金属価格変動の影響により20Q2で大きく減益を見込む。
- Q. 機能材料セグメントの20Q2経常利益が貴金属価格影響▲19億円除いても33億円と20Q1経常利益38億円より減益になっているが、その要因を主要製品毎に教えてください。
- A. 20Q1から20Q2への減益要因は、電材向け金属粉などの需要が落ち着くと見ていること、および研究開発費の増加を約▲6億円見込んでいることが挙げられる。銅箔事業については、電解銅箔やMicroThin™の増販を見込むも、夏場の電力費など現実的なコストアップ要因も織り込んでおり、銅箔での大きな利益増は見えていない。

【金属セグメント】

- Q. (決算説明資料P15) ワンサラ鉱山の20Q2の稼働状況および従来比でどれくらいの稼働なのかを教えてください。また、カセロネス銅鉱山の操業ダウンについて、COVID-19影響以外のものが含まれているのか、また今後の操業見通しなどを教えてください。
- A. ワンサラ鉱山は予定通り7月から操業開始したが、引き続きCOVID-19の対策を実施していることもあり、通常操業の7-8割に留まる見込。カセロネス銅鉱山の操業ダウンはCOVID-19の影響であり、他の操業悪化要因があるわけではない。足元通常操業に向けて努力しているところ。

【自動車部品セグメント】

- Q. 自動車部品について、赤字幅が縮小する見込みとなっているが、売上増加の背景と原価低減がどのような要因で進んだのか、また下期以降も原価低減の効果が残るものなのか教えてください。
- A. 前回予想の数値は、20Q1は50%落ち込むなど、ある仮定を置いて算出したものであり、精緻に積み上げた計画というわけではない。よって、今回のQ1決算でコスト削減効果が実績として見えてきて、それを踏まえて上期見込を修正したということをご理解ください。

【全体】

- Q. 前回予想で織り込んだCOVID-19影響の考え方について、売上で▲700億円減収、経常利益は改善策+70億円織り込んで▲200億円減益、という計画だったが、上期業績見直しの際に、減収額や改善策のどの程度が上期に実現すると見ているのか、ご解説ください。
- A. 全体の利益に与える影響は▲270億円減益、改善努力で+70億円であったが、そのうち減益要因に金属価格の下落を見ていた部分は今回の上期見込では改善方向。また、改善努力の中でエネルギーコスト削減の部分は想定内の改善、という認識。また自動車部品の原価低減については、今回の20Q1決算で原価低減が進んでいることもあり、対前回予想で上振れた部分はあると見ている。しかしながら、まだ先行き不透明感もあり、通期見通しは変えていない。



- Q. 改善策+70億円は上期見込時点では順調に進捗中であり、▲270億円減益のうち市況下落による部分は縮小しており、その部分が上振れの要因になっている。よって年間業績の見方としては市況下落部分がもう少し小さくなりそうだ、という理解で宜しいでしょうか。
- A. 今回の20Q1決算時点ではその通りであり、金属価格が前回予想より少し上振れている状況。

以 上